

令和6年度学校関係者評価委員会 会議記録

日時: 令和7年 5月8日(木) 時間: 13:00~14:00 場所: 宝塚市立看護専門学校 視聴覚教室

出席者: 委員長、委員: 自治会長、実習病院施設代表、保護者代表、同窓会代表
学校長、教務主任、事務長、専任教員 3 名

1. 学校関係者評価委員紹介

2. 宝塚市立看護専門学校の教育理念、教育方針、中間目標の評価について(資料 1 参照)

教育理念として宝塚市に大きく貢献できるように、という視点を強く掲げている。また豊かな人間性をはぐくんでいる。教育方針としては、教員・学生の壁をなくし、お互いに学んでいく姿勢を大切にしている。また確かな技術と知識を土台に科学的な思考をもって看護を考え実践できる人材の育成に取り組んでいる。しかし、現在は看護を目指す学生が減少傾向である。本校としては、こうした方針を持ちながらこれからも看護を目指す学生を育てていきたい。

カリキュラムポリシーとしては、学生の主体的な発信力を大切に育てたいと考えているが、教員と学生の求めているもの、感覚の違いもあってなかなか難しい現状がある。看護師として必要な倫理観については、低学年から養っていくカリキュラムとなっている。学生が効果的に学びを積み上げていけるよう授業や実習の配列も考えているが、新カリキュラムとなって授業の過密さや構成の複雑性もあり、効果的な学習としての配列として見直しも行っている。具体的には、経過状態別看護の科目の教育内容の精選や配列について検討していく。

また看護の対象を生活者にとらえて、理解し看護を考えられる人材育成につながるよう、地域在宅のカリキュラムも充実させている。そこでは多職種との連携も大切であり、本校としては市内の甲子園大学との共同学習に取り組んでいる。大学生との人数比のアンバランスなど課題はあるが、学生の実感としては充実した学びにつながっている。

学校としての長期目標としては、宝塚市民に必要とされる学校を目指す。また宝塚の学生ならではの、といってもらえるようなスペシャリストの育成を目指す

3, 令和 6 年度 宝塚市立看護専門学校自己評価について(資料 2 参照)

教員の育成の点数が低い。日々の業務の煩雑さが要因としてありその解決と研修に参加する風土づくりが必要と考える。施設設備の老朽化があり点数も低い、予算をとってLED化など、設備の保守には務めている。学生にとって一番不便なのは、学内PCの立ち上がりセキュリティの関係上とても時間がかかり、使用上の不便さがある。それも令和8年度には改善していく予定。

4, 令和6年度 在校生・保護者による学校評価(資料 3 参照)

全体的に普通以上の評価となっている。学生の自己評価として、主体的に学んでいると評価している。これは教員の評価と乖離があり、学生の認識にそった支援が必要である。

授業過程、実習体制、学習環境は、他と比べるとやや低い。カリキュラムの見直し、実習での指導者と教員の連携など、見直していく。学習環境としてパソコン環境の改善に努力する

5, 令和6年度 授業評価(資料 4 参照)

どの科目も、4評価でよい評価となっている。統合と実習のみ3評価で低い。実習のスピードや内容など、担当講師とは見直しについて話を進めているカリキュラムの見直しとして、実習時期の変更を考えている。2年生で実施している高齢者施設実習を31期生より3年生に変更する。これにより2年生の授業時間に余裕ができるため、3年生の授業科目を2年生に移動させる

6, 令和7年度の教育方針(資料 6 参照)

重点目標3の「他者に対する優しさを育む」、について、最近の学生はSNSの影響もあり、他者の立場にたって物事を考える力が低い。そこにも刺激を与えながら、看護者としての育成に努めたい

7, 質疑応答

委員：実習指導をしていた時に、学生指導と新人看護教育委員会との連携が必要じゃないかと感じていた。今回、学校と新人教育が連携することはとても良いと思う。新人教育と学生教育の隔たりが少なくなることを期待する。

教務主任：昨日、病院の新人教育委員会に参加したが、現場も基礎教育も、臨床判断能力の育成を大切にしている。また教えるという姿勢ではなくともに学ぶという姿勢も、同様に感じ取られた。

委員：当病院の強みは、となりに看護学校があり、そこで学んだ看護師が就職して活躍してくれる、一連の環境だと考える。今後も学校と基礎教育と現任教育で連携していきたい。教員の育成の点数が低い、病院との連携という視点でも職員教育に協力していければと考える

委員：想定以上の学生の変化とは？なにがそんなに違うのか？親に育てられて義務教育も受けてきている。とても個性的ということか？ボランティアで出会う学生はみんなよい子と感じている。

教務主任：対人関係、発信力は変化している。看護師は人相手の仕事なので、自らの考えを発信することはとても大切。しかし、学生は触れる距離にいてもラインでコミュニケーションしたり、思っていることを言えなかったりというのが現状。また深く考えることができない。

委員：深く考えろといわれても考え方がわからない、何を考えていいかわからない、というのではないかな？

教務主任：少しずつ学生の思考を具体化してくようには関わっている。また自分が発信したことに対して認められるといった自己肯定感を育むような関わりも意識している。少しずつ学生も変化しているが、教員の求めているものも高いかもしれない。そうした中で、教員としても、学生に何をどこまで求めたらよいのか、日々悩み考えている

委員：教える、ではなく、本人が何をどうしたいのか、どうしてほしいのか、本人の思いが一番大切ではないかと考える。対人関係で相手が何を望んでいるのか、そこを考えさせることはとても大変だと考えるが、よろしくお願いします

委員：国家試験18年連続100%合格には、どんな指導があつてのことなのか、とも考える。娘の話を聞くと、グループで協力・共有しながらすすめているとき、そうした指導があつてのことと考える。学生は経験値も少ない中で、グループワークをすすめることも大変だと思う。講師の経験を学生に伝えてもらうことで、学生も心に残る、心が揺さぶられるものがあると思う。よろしくお願いします。

委員長：表現と読解の授業では、考える、とは何だろう、ということから始めている。カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーにかかげているこの視点を、すべての講師が意識して学生に関われば、よりよいと考える。

学校長：みなさまからの評価・アドバイスをうけて、今後も学生の教育に関わっていきます。ありがとうございました。

以上